

コンソーシアム便り 第4号

平成27年9月28日
工業系高校人材育成コンソーシアム千葉会長 小野祐司
(千葉県立現代産業科学館長)

1

コンソーシアム便りの ロゴ (題字) ができました！

コンソーシアム便りのロゴのデザインを市川工業高校インテリア科にお願いしました。インテリアを専攻する生徒6人が、作品案を作り、校内コンペの結果、小林 裕夏さんの作品が採用され、今号から使用させていただきますので、ご紹介致します。



県立市川工業高校
インテリア科3年
小林 裕夏 さん

Interview

問1 どんなイメージで作りましたか？

「コンソーシアム便り」ということで、工業のイメージを入れたいと思い、工場のシルエットのような枠にしました。歯車や煙突から出ている煙は、工場が動いているように見えるよう描きました。

問2 工夫した点はどこですか？

見栄えが良くなるように文字にメリハリをつけて、1文字1文字の終わりの部分を流れるように描きバランスに気をつけました。

問3 工業高校の3年間はいかがでしたか？

1年生の頃から製図やデザインを学んできて、いろいろな知識を得られたので、デザイン系が好きな自分にとってはとても充実した3年間でした。また、行事等も多く毎日楽しく過ごせました。

問4 将来の夢は何ですか？

私の将来の夢は、デザインやイラストに関わる仕事をする事です。小さい頃からイラストを描くことが好きで、市川工業高校に入学したのもデザインなどが学べるのが大きな理由です。

【会長のコメント】

新聞のロゴ(題字)は、当該紙の「顔」と言われます。

今回、市川工業高等学校インテリア科の小林裕夏さんが素晴らしい作品を提供してくださったお陰で、まさに「画竜点睛」の故事成語のように、「コンソーシアム便り第4号」を契機に、昇り竜の如く、大きく飛躍したいと願うものです。

小林さんと当該コンペに参加していただいた生徒の皆さん、そしてご指導してくださった先生方と藤平校長先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。

2

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉第2回運営委員会

平成27年7月7日、国際理工情報デザイン専門学校を会場として平成27年度「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉（以下コンソーシアム）・第2回運営委員会」が開催されました。

会議の内容は以下のとおりです。

(1) 報告

- ア 企業見学（教職員研修）について
- イ コンソーシアム便り第3号発刊について
- ウ 理数工学科の広報について
- エ S P Hの進捗状況について

(2) 議事

- オ ホームページについて

(3) 協議

- カ 連携方策について
- キ 生徒の進路指導について

会場：国際理工情報デザイン専門学校



討議の内容を紹介します（抜粋）。

報告事項ーア 企業見学（教職員研修）について

【事務局長】

今回の見学会は総会の際に、参加企業から提案された好意に甘んじ、新日鐵住金(株)君津製鐵所様にお願ひしました。開催日の参加予定職員は32名です。

報告事項ーウ 理数工学科の広報について

【千葉工業】

来年度、新しい学科「理数工学科」が設置されることになり、広報用ポスターを作成しました。作成にあたっては、国際理工情報デザイン専門学校にお願ひし、快く引き受けていただきました。



報告事項ーエ S P Hの進捗状況について

【千葉工業】

千葉工業高等学校が平成27年度S P Hに指定されましたので、概要を紹介します。

(1) 社会ニーズ、地域ニーズに応じた「課題研究」では、千葉大学主催の高校生理科研究発表会、及び当コンソーシアム主催の課題研究等発表会に参加する計画です。

(2) 本校で新たにタブレットが42台入りますので、I C T機器等を利用した反転授業を実施するなど新しい試みに挑戦します。

(3) 当コンソーシアムの皆様の力を借りて高大連携、企業との連携を通して高度先進科

学技術の学習についてご支援をお願いしたい。まず始めに7月14日に千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長 古田 貴之 様にご講演をいただく予定です。

(4) Post Doctor や修士学生と連携し、英語による講演会を行ったり、課題研究についての発表や意見交換を英語で行う予定です。

(5) インターンシップ・企業実習の実施について、当コンソーシアム等の会員企業と連携し、実施する予定です。受入れ企業の確保が難しい状態で、苦戦しています。今後、コンソーシアムの皆様のご支援を仰ぎ、受入れ企業の拡大に努めていきます。

本校がSPHに指定されるに当たり、この工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の存在は極めて大きかったものと認識しています。

【改革推進課】

千葉工業高校がSPHに指定されたことは、千葉工業高校だけの話で終わるものではないと考えています。ここで研究開発されたものを県内全ての工業高校に波及させ、生かしていくという非常に大事な役割を果たすものです。

協議事項ーカ 連携方策について

【事務局長】

連携事例として3件紹介します。

(1) 昨年度「少子高齢化社会に寄与可能な乗り物の研究」で1年間取組んできました。連携先として日本大学理工学部 様、(株)OXエンジニアリング 様、県産業支援技術研究所 様、(株)昭和電業社 様にご支援をいただきました。

(2) インターンシップと協力企業リストの資料で、学校現場で活用出来る企業情報を、県商工労働部から提供いただきました。各学校でリストの中の企業と連携を深めていただければと思います。

(3) 千葉工業電気系学科と電業協会との連携

【関係機関】

生徒が電気工事をやりたいと言って就職しても離職する。原因は仕事についてよく理解できていないこと。電業協会も若年の労働者が不足している。どうやって求人すれば良いのか判らない、お互い判らない者同士くっつけると言うことで連携を行いました。

【高等学校】

最初は情報交換会でした。その後、出前授業、会社見学、課題研究発表会となりました。電業協会との関わりを持ってから生徒の方も少しずつこちらの方の仕事に就く生徒が増えつつあります。

【会長】

私が市川工業高校の校長在任中、東光電気(株)の見学に行ったとき、電気科の生徒40人を前にして技術者がおっしゃった言葉を私は忘れられません。「技術者として停電は絶対にさせない。」そういう思いで技術者はやっているんだと非常に印象に残りました。

【企業】

電気科の目指すところ、第一種電気工事士とか、電気主任技術者等は実際どのくらいの資格取得率なのか。

【高等学校】

主任技術者に関しては昨年2名合格しました。6名受けて科目合格もあり、基本的には全員が何かに合格しています。

各校で連携して取り組んでいる課題研究について

【高等学校】

情報技術科の「銚子電鉄への技術供与」で鯛焼きの電車版を作ることになった。鑄造の企業の（株）カトーと提携することができ、現在鑄型製作に入っています。

【高等学校】

建築科で国際建築デザインの課題として、竹の強度実験を日本大学理工学部様と行っています。

【関係機関】

研究テーマの一番の問題点は先生がスーパーティーチャーでなければいけないこと。生徒は色々なことを聞いてきて、その時スーパーティーチャーがいて、こういう時はこんな企業に相談すべきと助言できればスムーズになり、もっといい課題研究ができます。コンソーシアムで誰かスーパーティーチャーになれば。

協議事項ーキ 生徒の進路指導について

【事務局長】

就職について、今年度は例年になく早いペースで求人票を多くいただいています。進学について、千葉工業高校の例では、例年どおり3割程度の生徒が希望していますが、大学指定校推薦の状況は近年厳しくなっていると感じています。

【高等学校】

本校で言いますと、就職について7月3日現在去年の同日比1.5倍までできています。来校する企業さんに聞くと昨年度よりも採用の枠を増大させています。

【会長】

我々の使命とすれば、優秀な人材を千葉県で産出して千葉県内で就職してもらおう。コンソーシアムで、この人材をどのようにして育てていくかを今後益々考える必要があると思います。

3

お知らせ

(1) 産業教育フェア

今年度は10月17日(土)、18日(日)にイオンモール幕張新都心で開催されます。昨年と同様に課題研究発表(中間発表)等を開催予定です。各校、準備をお願いします。

(2) 7月に発行しました「コンソーシアム便り3号」の最終ページに、「課題研究等外部機関との連携について」の申込書を添付しました。仲介を希望する事柄がありましたらご利用ください。

(3) 今後の予定

運営委員会を11月16日(月)に、総会を2月4日(木)に開催する予定です。

【工業系高校人材育成コンソーシアム千葉事務局】

事務局長(千葉工業高校教頭) 西澤 康男

TEL 043-264-6251 FAX 043-268-5524